

51年目に突入するポルトガル語学科で

学科長 Mauro Neves

新入生の皆さん、ポルトガル語学科ようこそ！在学生の皆さん、新たな気持ちで新学期を迎えたことと期待しています。

ポルトガル語学科は、去年で発足 50 周年を迎え、シンポジウムとパーティーが開催されました。今年から学科はきっと新しい歴史のページを開き始めるに違いありません。その新しい歴史に皆さんが参加することを期待しています。

ところで今年は、1895 年 11 月 5 日に「日伯修好通商航海条約」が結ばれてから 120 周年に当たります。これを記念して日本とブラジルでは、多彩な行事が行われる予定です。戦前、戦後にわたる移住から始まり、1950 年代から経済関係、さらに 80 年代末からの日系人の日本へのデカセギと、両国関係の様相は変わってきました。

現在ブラジルは目覚ましい経済成長を遂げようとしています。そして来年（2016 年）はリオデジャネイロオリンピック開催を機に世界におけるブラジルのプレゼンスは更に強くなると期待されています。

今の世界におけるボーダー（国境だけではなく、様々な意味で）がグローバル化によってなくなりつつあり、一つの国に一つの言語と一つの文化という時代はなくなりました。

その時代に一つの言語を学ぶということは、ただ単に言葉を学ぶだけではなく、異文化のルーツを持つ人間同士の心をつなげることを試みるための橋を架けるということです。当学科で勉強するということは、その橋を架ける力になることに違いありませんと私たち先生全員が確信しています。特に 1 年目の基礎がとても重要です。諦める気持ちになる時も現れます。その時に、レバノン出身の詩人、ハリール・ジブラーン（1883 年—1931 年）の言葉「自分の人生に困難が存在することは好ましい。その困難が存在するのはそれらを越えられなくなるからである。」を思い出して諦めずに頑張ってください。

2 年次生は、語学カリキュラムの中で最も内容が複雑で予習・復習が必要な年を迎えます。様々な授業を通して学んだ基礎を向上するように目指してください。

3 年次生は、学習してきたことを応用する年を迎えます。「総合ポルトガル語」という 20 科目の中から 6 科目を選出し、ポルトガル語で様々な資料を読み解いてコミュニケーションを向上するように目指してください。そのため、積極的に授業に参加することは不可欠なものになります。また、演習科目の履修も始まりますので、自分が興味ある分野を楽しく勉強しましょう。

4 年次生は、就職活動に頑張ることでしょう。しかし「総合ポルトガル語」の 2 科目の登録がまだありますから、ポルトガル語を最後に磨くように過ごしてください。そして内定が決まり次第、学科へ報告してください。

この 1 年間を無駄にしないことは、自分自身次第だと忘れないように！私たち先生全員がサポートしますが、自分は自分を生かすのかそれとも無駄にするのかを、決めるのは自分自身です。

新入生はポルトガル語を勉強し始めたら理解できるようになる言葉ですが、皆さんがこの学科に入ったことは皆さんの *destino* でもあり、皆さんの *fado* を変えるチャンスでもあります。その *fado/destino* を嬉しく受け入れ、自分のためになることを期待しています。